

埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News



基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するよう努めます。

使 命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

基本方針：上記の理念に従って患者中心主義（patient-centered）を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

患者さんの権利：当センターは、全ての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- (1) ひとりひとりが大切にされる権利 (2) 安心して質の高い医療を受ける権利 (3) ご自身の希望を述べる権利
(4) 納得できるまで説明を聞く権利 (5) 医療内容をご自身で決める権利 (6) プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利：(1) ひとりの人間として尊重される権利

- (2) 質の高いおもいやりのある安心安全な医療を受ける権利
(3) 年齢や理解度に応じた十分な説明と情報提供を受ける権利
*子どもさんとご家族が、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで説明を受ける権利
(4) ご自身で希望を述べる権利
*子どもさんとご家族が、ご自身の精神的、文化的、社会的、倫理的な問題について要望する権利
(5) 自己決定の権利
*子どもさんとご家族が、自らの意思に基づいて医療内容を選択あるいは拒否する権利
(6) プライバシーを守られる権利

「ダヴィンチ Xi」 を導入しました

この度、当センターは内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」を2台導入し、10月からロボット支援手術を開始しました。ダヴィンチは、より複雑で難しい手術に対する低侵襲手術を可能にする手術支援ロボットで、ペイシェントカート（写真①）、サージョンコンソール（写真②）、ビジョンカート（モニター）（写真③）の3つから構成されています。ペイシェントカートと呼ばれるロボット本体に内視鏡カメラと鉗子（写真④）を取り付け、小さな切開創からそれらをお腹に挿入して手術を行います。術者はサージョンコンソールに座り遠隔操作によりペイシェントカートを動かします。

ダヴィンチの最大の特徴は、人間の手よりも細かな動きが可能な多関節機能があることです。従来の開腹手術の欠点を補い、安全性、低侵襲性に優れた医療を提供します。

- ・狭い視野でも安全に縫合・結紮が可能
- ・創が小さいため手術痕が目立たず、疼痛も少ない
- ・出血量が少ない
- ・柔軟な鉗子の動きにより術後合併症が少ない
- ・手振れがなく、細かな手技が可能
- ・入院期間の短縮、早期社会復帰

また、シミュレーターを使用し、バーチャル環境下で泌尿器科、婦人科、外科、呼吸器外科領域のロボット支援下手術手技演習を行うこともでき、若い医師の教育も可能です。当院では、既に前立腺がん・胃がん・大腸がんにおいてダヴィンチでの支援手術を開始しており、11月以降肺がん・肝臓がんについても開始予定です。その他の手術についても開始準備を進めております。該当疾病の患者さんがいらっしゃいましたら是非担当診療科へご紹介ください。



(写真①) ペイシェントカート

医師の手の動きを正確に、繊細に再現して手術を行います。カメラとロボットアームで構成されています。

当センターで実施しているロボット支援手術 ※保険適用

疾患名	診療科
肺がん	呼吸器外科
食道がん	上部消化管外科
胃がん	上部消化管外科
直腸がん	下部消化管外科
結腸がん	下部消化管外科
肝臓がん	肝胆膵外科
前立腺がん	泌尿器腫瘍科
膀胱がん	泌尿器腫瘍科
腎臓がん	泌尿器腫瘍科
子宮体がん	婦人科腫瘍科

**(写真②) サージョンコンソール
(操作部)**

医師が高解像度の3D画像を見ながら鉗子を操作する操作台です。



**(写真③) ビジョンカート
(モニター)**

術者以外のスタッフはこのモニターを見ながら手術を行います。



(写真④) 鉗子

鉗子には、人間のよう関節があります。



新たに F 棟が完成しました

当院は平成 31 年 4 月に厚生労働大臣よりがん診療連携拠点病院（高度型）に指定されました。日本のがん治療の拠点として、新たな使命を受け日々最新のがん治療を行っています。院内がん登録数は大学病院で国内トップの年間約 5200 ～ 5300 件ほどになります。病床数 700 床のうち 380 床をがん専門病床として確保しておりましたが、より多くの患者さんを受け入れるため、56 床の病床を含むがん治療専門の F 棟を新築いたしました。

1 階には、リニアック治療室や MR リニアック治療室、サイバーナイフ治療室などの放射線治療を整備しました。MRI と放射線治療機器を組み合わせた MR リニアックは、従来機器に比べてより高精度な放射線の照射が可能となります。

2 階には、外来化学療法室を E 棟より移転しました。チェアを 55 脚、ベッドを 22 台へ増設しました。日本最大級のベッド・チェア数であり、プライバシーに配慮し全て個室タイプです。



1 階 放射線治療室



2 階 化学療法室

4 階には、がん治療病棟を 56 床増床しました。化学療法、放射線治療、手術に対応するがん治療病棟として医療・看護等を提供します。「温熱」「音」「光」を最適化する技術を適用した療養環

境のもと、多くのがん患者さんに、安心して安全な高度がん治療を提供していきます。対象の患者さんがいましたらご紹介ください。



4 階病棟（個室）



4 階病棟（特別室）

第 89 回埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携懇話会が開催されました

令和 4 年 7 月 20 日（水）19 時 00 分より、地域医療連携懇話会が Web にて開催されました。

今回は救命救急科の大原先生、奈良先生、宮田先生の 3 名にご講演いただきました。

お忙しい中ご視聴いただいた皆様、またコメントを頂きました医療機関の皆様、ありがとうございました。次回は 12 月 21 日（水）に消化器腫瘍科で予定しております。詳細は順次ご案内いたします。

【総合司会】

地域医療連携室 室長 真下 由美 先生

【開会の辞】

病院長 佐伯 俊昭 先生

【講演】

司会進行：救命救急科 講師 大谷 義孝 先生

①「当科における Acute Care Surgery の現状」

救命救急科 講師 大原 泰宏 先生

②「大腸憩室穿孔に対し Open Abdominal Management を行い人工肛門を回避できた 1 例」

救命救急科 助教 奈良 愛 先生

③「SMA 血栓症に対し心臓血管外科とともに血栓除去を施行した 1 例」

救命救急科 助教 宮田 秀平 先生

【閉会の辞】

救命救急センター長 根本 学 先生



左から 真下由美、大谷義孝、佐伯俊昭、奈良愛、根本学、枡岡歩

新任診療部長・教授のご紹介

新任診療部長のご挨拶



ほあし たかや
帆足 孝也

診療科：小児心臓外科 教授

専門分野：新生児開心術、先天性複雑心疾患外科治療、単心室外科治療、
小児重症心不全外科治療

令和4年5月1日付けで埼玉医科大学国際医療センターに赴任いたしました。5月1日付けで小児心臓外科教授を、6月1日付けで小児心臓外科診療部長を拝命しております。

低出生体重児の動脈管閉鎖術、動脈スイッチやノーウッド手術などの新生児複雑心奇形手術、成人先天性心疾患に対する再手術、あるいは補助人工心臓装着や心移植など先天性心疾患・小児心臓疾患に対するあらゆる手術に対応可能です。

小児心臓科、心臓血管外科と密に協力し診療を行っています。どのような先天性心疾患の患者様でも、お気軽にご紹介下さい。宜しくお願い申し上げます。

新任診療部長のご挨拶



ますおか あゆむ
枘岡 歩

診療科：小児救命救急科 准教授

専門分野：小児集中治療、小児を含む補助循環治療、人工心臓治療

私は2007年4月の埼玉医科大学国際医療センター開院時から、小児心臓外科医として先天性心疾患治療と人工心臓を含めた補助循環治療に従事し、2022年8月1日付けで埼玉医科大学国際医療センター小児救命救急科診療部長を拝命しました。

当科は救命救急センターの一部門として、小児救命救急疾患を担当していません。対象となる主な疾患は、救急車で搬送される外傷や熱傷などの小児外傷性救急疾患で、初診から入院後の小児集中治療にも対応しています。私のこれまでの小児集中治療の経験をいかし、地域の小児救急医療のさらなる充実に貢献できればと存じますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



ましも ゆみ
眞下 由美

診療科：地域医療科・消化器内科 教授
専門分野：内科学、消化器病学、消化器内視鏡学（消化管）

令和4年6月1日付けで国際医療センター地域医療科・消化器内科教授を拝命いたしました。平成25年7月より消化器内科内視鏡科に赴任以降、診療・研究・教育に従事して参りました。地域の先生方からご紹介頂いた、多くの早期消化管がんの患者様が、当院での内視鏡治療で治癒し、紹介元に継続通院されております。

令和3年1月1日より、地域連携室長・地域医療科診療部長を兼任し、前方・後方連携の強化・拡充に務めて参りました。今後は、より強固な連携のため、地域連携システムにICTを導入し、地域の先生方・患者様に信頼され、満足いただける埼玉医科大学国際医療センターでありたいと考えております。

新任教授のご挨拶



あいかわ まさやす
合川 公康

診療科：消化器外科（肝胆膵外科） 教授
専門分野：肝胆膵外科、内視鏡外科

この度、令和4年6月1日付けにて国際医療センター消化器外科教授を拝命いたしました。私は、産業医科大学を平成7年に卒業し、同大学の第2外科学（胸部外科）へ入局いたしましたが、その後紆余曲折あり、平成19年4月の開院時より国際医療センターに赴任しております。

当院は、全国屈指の肝胆膵癌ハイボリュームセンターであり、当方は、年間100例近い肝胆膵領域の手術に携わっております。また、センハンスデジタルラパロスコープシステム（内視鏡外科支援ロボット）やDaVinci サージカルシステム（手術支援ロボット）の肝胆膵外科への導入という先進的な治療にも従事しております。他院では手術が不可能と言われた患者様も血行再建を併施する拡大手術や、腹腔鏡の低侵襲性を活かした手術を検討いたしますので、お気軽にご相談頂けたら幸いです。今後ともご指導の程何卒よろしく願いいたします。



当院は予約制です 下記の方法でご予約ください

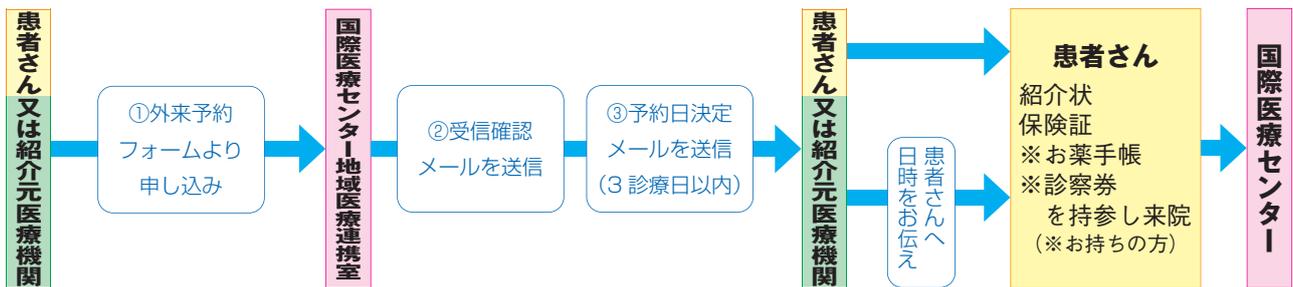
① 患者さんからの電話予約



② 医療機関からの電話予約



③ インターネットからの予約 (初診専用) 紹介状は患者さんへお渡しください。



Organization Accredited
by Joint Commission International



インターネット
予約入力フォームは
こちらから



埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News (第26号)

編集・発行：埼玉医科大学国際医療センター
地域医療連携室

編集責任者：眞下 由美
発行責任者：佐伯 俊昭

住 所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

TEL：042-984-4433

FAX：042-984-4740

発行日：2022年11月21日

URL：https://www.international.saitama-med.ac.jp